

# 酷暑のなかで

# 被災者を支援

西日本豪雨災害に四千名超のボランティアの力

6月28日から降り続いた梅雨前線による大雨は、各地の7月の降水記録を次々と塗り替えていくことになりました。西日本全体に大きな被害が出ましたが、京都府内においても複数の市町村で災害救助法が適用されるなど大きな被害となりました。京都府社協と京都府災害ボランティアセンターでは、発災直後（7月7日）に緊急の対策会議を開催するとともに府内の被害状況等の把握を行い、各市町村社協、災害ボランティアセンター（以下、災害ボラセン）と連携し、被災された皆さんへの支援を行ってまいりました。

## 刻々と変化する状況

今回の大雨では、福知山市坂浦で期間降水量（6月28日～7

月8日）が594<sup>ミリ</sup>に達するなど、多くの河川が氾濫危険水位に達した他、日吉ダムでは初の非常ゲート放水が行われるなど稀にみる雨量・水量となりました。バックウォーター現象や内



水氾濫に止まらず、山間地域を中心に土砂崩れが多発し、被害を大きくしたことも特徴でした。

## 各地で災害ボラセンを開設・非常時体制移行

京都府内では7市町で災害ボラセンの開設もしくは非常時体制への移行が行われました。7月31日現在で延べ4,184名のボランティアに活動いただき、延べ367件の活動を行いました。また、各災害ボラセンには、府内市町村社協から延べ123名、本会より延べ28名が運営支援の応援に入るとともに、京都府災害ボラセンとしても開設初期を支援するために初動支援チーム（延べ17名）が現地での活動を行いました。（データは7月31日現在）

## 全国からの支援



被災地域に対して全国各地からの支援ボランティアなど、資機材や物資などの物的支援、サポート募金をはじめとする金銭面、広報も含めた情報提供体制づくりへの支援をいただきました。特に災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（本部・中央共同募金会）からはスタッフを派遣いただき、府内全体の災害ボラセン運営に多岐にわたる助言をいただきました。

## 「伝える」ことの大切さを再認識

今回の豪雨災害は、西日本全

体で大きな被害が出たことや、直前の大阪北部地震からの復興途中であったことから京都府内の被災地の状況を伝える報道もやや限定的なものでした。しかし、個々の世帯の被災は他の地域と比較するものではなく、支援が必要である状況は変わりません。多くの方々からのご支援をいただくには、現状をできるだけ早く、かつ正確に「伝える」ことが重要であると考えました。報道機関への定期的な情報提供やホームページ、SNSを軸にした広報にも力を入れました。

## 被災地とボランティアを繋ぐ

京都府災害ボラセンでは、被災地とボランティアを繋ぐ、ボラ

ンティアバスを計5日間（バス15台）運行し計445名の方に参加いただきました。またボランティアサポート募金も開始し「現地に駆けなくてもできる支援」をお願いしました。ボランティアバスの運行や募金活動には、本会だけでなく京都府災害ボラセンに関わっていただいている団体や企業から多岐にわたるご支援をいただきました。

## 熱中症への対策も

史上稀にみる酷暑のなかでのボランティア活動になるため熱中症予防への対策も大きなテーマとなりました。「暑いから仕方がない」ではなく、「熱中症にならないように」をモットーに、ボランティアの皆さんの自主性を尊重しつつ、「適切な休憩をしながらの活動」をお願いしました。また、「熱中症対策キット」（冷却シート・スプレー、塩飴など）を用意し、各災害ボラセンに用意しました。「キット」の準備には、京都府災害ボラセンの参画団体を中心に多くのご寄付もいただきました。

## これからの支援。災害支援から生活支援へ。

今回の災害に限らず、防災・減災の活動も含めて復興・復旧には日常的な「つながり」が大切と言われます。地域防災計画や要配慮者避難支援計画などの施策や救助体制（公助）。住民自身の主体的な活動（自助）をもとにした地域での「仕組み」づくり（互助・共助）。また、「向こう三軒両隣」といわれるご近所の「つながり」、属性が近い方向士のコミュニティ（例えば、外国籍の方、障害のある方、乳幼児のおられる家庭同士など）の「つながり」も考えられます。具体的な方法は特性や地域性も含めて多種多様に考えられますが、日常的な「つながり」があることが「いざ」という時の力になります。

## 住民の方々の声

活動先のお宅でいただいた言葉を紹介いたします。「ボランティアの方が泥だらけになりながら、私たちのために頑張ってくれる。泥の中から、（地面の）コンクリートが見えた。明日からの希望が持てます」「社協が、こんなことまでしてくれるなんて。社協のファンになりました」などなど。もちろん、災害が無いにこしたことはありませんが、災害時の支援という「つながり」が、日常のあらたな「つながり」を生んでいくことも事実です。「今」の暮らしを支えつつ、「これから」共に地域を創っていくことを着実に進めていくことが社協の使命だと改めて実感しています。

## ●京都府災害ボランティアセンター加盟団体からの支援

京都府生活協同組合連合会、日本青年会議所京都ブロック協議会、宇治市災害VC、宇治田原町災害VC、木津川市災害VC、赤十字レスキューチェーン、京田辺市災害VC、京都災害ボランティアネット、京都青少年ゆめネットワーク、日本赤十字社京都府支部、株式会社アグティ、京都災ボバンク縁、京都府電気工事工業協同組合、サガレントリース株式会社、株式会社エスアールエム、株式会社ウィングスマルコー、京都府市町村社協連合会、京都府、京都府社会福祉協議会 等



京都府災害ボラセンでは、被災地とボランティアを繋ぐ、ボラ

## 大阪北部地震での対応

6月18日に発生した地震では京都府内においても複数の市町村において被害が発生しました。八幡市においては約2000件の罹災証明書が発行される等、最も大きな被害がありました。

八幡市社協では八幡市災害ボラセンを非常時体制に移行し、市内の福祉委員やボランティアの協力を得て瓦礫の撤去や家屋内の清掃、家具移動など住民の生活復旧への活動を行いました。

京都府災害ボランティアセンターにご支援いただいたご寄附（7月31日現在）ボランティアサポート募金 計334,117円